

「下北沢駅周辺地区 地区計画」の慎重な審議を求める陳情書

「54号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」

代表 大木 雄 高

<連絡先>

〒155-0032

東京都世田谷区代沢2-20-12 ビグトリイ

03-3419-6261

「下北沢駅周辺地区 地区計画」の慎重な審議を求める陳情書

[陳情主旨]

下北沢の都市計画は、住民や商業者、専門家や市民団体など、さまざまな人々による協議を重ね、その意見をきめ細やかに反映しながら決定・実施することが肝要です。世田谷区が、「下北沢駅周辺地区地区計画」を策定するにあたっては、拙速に進めることなく、各関係者によるラウンドテーブルの設置などを経た上で、慎重に対応されるよう議会として提言していただきたい。

[陳情理由]

下北沢は、路地で構成されたヒューマンスケールな魅力を持つ街として、全国の人々の人気を集めています。カフェや古着屋、バーなどの個性的な店と、八百屋や金物屋などの生活用品の店が混在する下北沢の特徴は、生活と芸術が身近にあって混在する、味わいの深さにあります。街のこの特徴は、私たち地元商業者を初め、人々が何十年にも渡る努力を重ねることで、ゆっくり醸成されました。下北沢の独特のスケール感と個性は、日本の都市計画を牽引する学者も、その貴重さを賞賛するところなのです。

しかし、世田谷区は、賑わいある下北沢駅北口の街中を分断する幅 26m の「都市計画道路補助 54 号線」を計画決定し、事業認可を目指しています。また区は、「区画街路 10 号線」を「補助 54 号線」計画の中に織り込み、駅前には車のためのロータリーを作ることで街の中心にたくさんの車を流入させようとしています。さらに、区は「下北沢駅周辺地区 地区計画」の計画決定を目指しており、まとまった敷地に対して高さ 60m までのビルの建設を認め、民間再開発を誘導しようとしています。

これらの計画が実施されると、下北沢の歩行者中心性が破壊されるとともに、独特のヒューマンスケールが失われます。高層ビルが多数建設されると、現在の個性あふれる街並みは、どこにでもあるような画一的な姿へと作り変えられてしまいます。この危惧が杞憂ではないことは、4月9日に日本を代表する都市計画家 29 名が、計画の再検討を求める緊急アピールを発表していることから明白です。

また、私たち小規模経営の商業者にとって、大手資本が主役の大きなビルが建ち並ぶことは、死活問題となります。大きなビルのテナント料は高く、私たちの多くはそこに入ることが困難であるのみならず、私たち小規模経営の店舗の多くは、経営上の困難にさらされてしまいます。

このため私たち「54 号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」は、地元商業者 510 の署名の提出など、上記の 3 つの計画の見直しを求める活動を続けて参りました。しかし、私たちの度重なる交渉にもかかわらず、世田谷区は、私たちの要望を顧慮することなく 3 月 30 日「地区計画素案」を原案に昇格させ、5 月 23 日には都市計画審議会にて報告を行い、26 日に都市計画法第 16 条に定める地権者対象の説明会を開催することを予定しています。

そこで、私たち「54 号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」は、上記陳情主旨のとおり、陳情いたします。

平成 18 年 5 月 15 日

世田谷区議会 議長 菅 沼 つ と む 様

「54 号線の見直しを求める下北沢商業者協議会」

代表 大木雄高 (Lady Jane) 代沢 5-31-14

世話人 青樹緑 (青樹) 北沢 2-32-8 SS ビル 2F

石本伸晃 (コモン法律事務所) 北沢 2-9-19-201

笹川史郎 (三好野) 北沢 2-24-4

平野悠 (Shelter) 北沢 2-6-10 仙田ビル B1

山崎千鶴子 (Mother) 代沢 5-36-14

若尾依治 (りゅう) 北沢 2-9-23